

ターミナルケアに携わる看護師のエンパワメントに関する研究

首都大学東京大学院 人間健康科学研究科
人間健康科学専攻 看護科学域 博士後期課程
中西 美千代

本研究は、ターミナルケアに携わる看護師の empowerment を明らかにし、ターミナルケアにおいて無力感や自責の念などを抱え、バーンアウトに陥りやすい看護師の支援に貢献することを目的としている。具体的には、1) 「ターミナルケアに携わる看護師の empowerment」の概念的構造、及び定義を明らかにするために概念分析を行った<研究 1>。2) Work Empowerment Model を日本の医療機関でターミナルケアに携わる看護師を対象に検証し、有効性を明らかにした<研究 2>。3) ターミナルケアに携わる看護師の心理的 empowerment の概念枠組みを概念分析の結果、及び Work Empowerment Model をもとに開発し、構成概念の構造と、empowerment に関連する諸要因との関係性を量的に検証した<研究 3>。4) 研究成果をもとにターミナルケアに携わる看護師の empowerment を高めるための支援の方策を検討した。

調査対象は、日本のがん診療連携拠点病院 409 施設を無作為抽出法により施設全体の約 20%となる 82 施設中、研究協力の得られた 34 施設 (41.46%) でターミナルケアに携わる看護師 1412 名とした。無記名の自記式質問紙調査法によって 492 名 (回収率 34.84%) からの回答を得た。分析対象は、有効回答となる 445 名 (有効回答率 90.45%) とした。本研究は、平成 26 年度首都大学東京荒川キャンパス研究安全倫理委員会の承認を得て実施した (承認番号 11066、及び 14063)。

<研究 1>により、「ターミナルケアに携わる看護師の empowerment」の概念が【power】【発展的なプロセス】【相互作用の中で育まれるもの】とする 3 つの構成要素が明らかになった。属性のひとつである【power】には認知・感情的、行動的要素を示すものとして特徴づけられた。<研究 2>では構造的 empowerment が心理的 empowerment に影響 ($\beta=0.42$) し、心理的 empowerment を介してバーンアウト ($\beta=-0.28$) に影響を与えていた。また、構造的 empowerment が心理的 empowerment に影響し ($\beta=0.48$)、心理的 well-being ($\beta=0.42$) に影響を与えていることが明らかになった。いずれのモデルの適合度も許容範囲であった ($p<0.01$)。<研究 3>により、ターミナルケアに携わる看護師の心理的 empowerment は、<影響力><有意味感><自己の能力に対する信頼><自己決定>の 4 つの構成概念 (Cronbach's $\alpha=0.851\sim0.910$) から成る円環構造が明らかになった。モデルの適合度は、GFI=0.99、AGFI=0.98、CFI=0.99、RMSEA=0.01 と良好であった ($p<0.01$)。また、影響要因には組織の<支援>や、向上や学習への<機会>を与えるなどの構造的 empowerment と、看護師のあり方、及び看護実践のあり方などの看護師の特性であった。モデルの適合度は、GFI=0.91、AGFI=0.87、CFI=0.93、RMSEA=0.08 と許容範囲であった ($p<0.01$)。

本研究の結果からカナダで開発された Work Empowerment Model が日本のターミナルケアに携わる看護師においても有効であることが検証された。ターミナルケアに携わる看護師の心理的 empowerment が 4 つの構成概念から成る円環構造の特徴が明らかになり、看護師の心理的 empowerment を高めるための支援を説明できるモデルの妥当性が検証された。